

アフリカにおいて、音楽は第一に娯楽であり、文化の営みである。しかしそれはまた、しばしば政治的な活力となり、さまざまな人びとや声を束ねる連帯や抵抗の拠り所ともなる。いつの時代も、苦しみや痛みを表すとともに、夢と希望をはこんできた。



【準備風景】

1945年以降のアフリカ大陸においては、独立運動に大きな弾みをもたらすことになった。



通じて、来場者とわたしたちがともに参加する新たなパンアフリカニズムの地平を開くことを目指した。

わたしたちは今回の発表で、そうした音楽の側面に目を向け、“パンアフリカニズム”を表現する歌の数々に注目した。

パンアフリカニズムとは、アフリカから奴隷貿易を通じてアメリカやカリブに連れられた人びとの子孫によって19世紀に生み出され、世界じゅうに散り散りになったアフリカの人びとをいわば一つの運命共同体としてとらえ、その解放と連帯を目指す思想＝運動である。

アフリカ(系)のミュージシャンたちは、どのようにパンアフリカニズムの思想を汲み取り、表現してきたのだろうか。展示では、さまざまなパンアフリカニズムをうたう音楽が流れ、レゲエの“レジェンド”ボブ・マーリーの映像が映し出される。そして、代表的な楽曲を複数とりあげ、詞を読み解くとともに、その自由な“組み替え”を



【歌詞組み替えセクション】

人びとを襲った非道な暴力の象徴としての奴隷船を、パンアフリカニズムの夢と希望をのせて未来へと航海し続ける“希望船”に転換した。

また、そもそもパンアフリカニズムが生まれるきっかけとなったのは、大西洋横断奴隷貿易であったことから、パンアフリカニズムについて思考することと奴隷貿易の痛ましい過去を見つめ直すことは不可分となる。

わたしたちは、奴隷船をモチーフにしたインスタレーション作品（ロミュアルド・ハズメ、ドミニク・ジंकペなど）からヒントを得て、アフリカとアフリカの



わたしたちの“希望船”には、パンアフリカニズムをうたうミュージシャンたち、そしてその思想と運動を形づくり、実践し、支えてきた人びとの無数の思いが詰まっていることだろう。

3色のパンアフリカ・カラー——アフリカが流した血の赤、アフリカの植生を表す緑、アフリカの豊かさを象徴する黄——の彩りによって、その思いを立体的、視覚的にも強調している。

この船に乗り、希望あふれる明日のアフリカへ、みなさんとともに旅立つことを願って——